



Text by
鈴木 裕
Yutaka Suzuki
Photo by 田代法三

FURUTECH
プラグ / IECコネクタ
FI-48M NCF (Ag) / FI-48 NCF (Ag)
各¥21,000(銀メッキ仕様)

FURUTECH
プラグ / IECコネクタ
FI-48M NCF (R) / FI-48 NCF (R)
各¥22,000(ロジウムメッキ仕様)

FURUTECH
プラグ / IECコネクタ
FI-46M NCF (G) / FI-46 NCF (G)
各¥17,000(金メッキ仕様)

※いずれも税別、5月末発売予定

好評のフルテック電源プラグ&コネクタにNCFを採用の3種類が新登場!

フルテックの高級電源プラグ/IECコネクタとして好評のFI-48シリーズに、特殊素材NCFを採用した新製品が登場した。しかも、従来のロジウムメッキに、銀メッキと金メッキ(FI-46 NCF)の2つの仕上げも加わった。NCFプラグ/コネクタとして、銀と金メッキは初登場のバージョンでもある。これで、大切な電源端子を音でチョイスできる奥深い魅力が一層増したと言えるだろう。早速、3種それぞれの音調の違いをレポートしよう。

Specifications
●ブレード/ナイフ部:純銅に各メッキ処理、α-Process処理(超低温処理&特殊電磁界処理) ●定格:15A 125V AC ●ハウジング:ステンレス合金削り出し(FI-48)、アルミ合金削り出しにブラッシング仕上げ+アルマイト処理(FI-46)、いずれも内部に特殊樹脂採用 ●本体:特殊樹脂、静電気対策特殊素材NCF調合 ●ケーブルクランプ部:特殊金属 ●アースジャンパー装備
※試験レポートの電源ケーブル部には、α PC-Triple C導体のケーブルを使用

まずFI・46M / 46 NCF (G)。ハウジングはアルミ合金削り出しで、ブラッシング処理の後にアルマイト仕上げ。導電部は純銅で、金メッキ処理した上で、超低温処理&特殊電磁界処理のαプロセス処理を施している。その音は、金メッキでイメージされる高域のきらびやかさが抑えられており、音色的な温かみだけでなくリアルな表現力を持ち

3モデルそれぞれの表現性 組み合わせでの起用もよい
まずFI・46M / 46 NCF (G)。ハウジングはアルミ合金削り出しで、ブラッシング処理の後にアルマイト仕上げ。導電部は純銅で、金メッキ処理した上で、超低温処理&特殊電磁界処理のαプロセス処理を施している。その音は、金メッキでイメージされる高域のきらびやかさが抑えられており、音色的な温かみだけでなくリアルな表現力を持ち

音質調整を含めて設計された工作性にも優れた新アイテム
フルテックの自作電源プラグとIECコネクタのフラッグシップはFI・50M / 50で、NCF(ナノ・クリスタル・フォーミュラ)を採用した製品の評価は既に高い。セカンドラインであるFI・48にも、NCFを採用したシリーズが登場した。ロジウムメッキだけでなく、銀メッキと金メッキ(FI・46)仕上げも加わっている。3種に共通する本体の樹脂部分には、セラミックとカーボンをナノ単位のパウダーにして調合、「飛躍的な振動吸収効果」を持たせている。しかも特殊素材のNCFを組み合わせたことで「ノイズの発生を抑え、静寂感が高まり、音の濁りがなくなる」という。ハウジング内部には制振性のある特殊樹脂、ケーブルクランプ部にも制振性を持つ特殊金属を採用。そのほかアースピンの根元に樹脂が途中まで入っていたり、導体をロックする開口部が拡がったりと細部の熟成が図られている。

低域の分解能はさすがに最高峰のFI・50シリーズ並みという訳にはいかないが、低域のエネルギー感が強く、押し出しもよい。空間の拡がりや伸びやかで、音像が独立して見える感覚も秀逸。緻密でニュアンス豊か。音が立つ方向のロジウムメッキと、まろやかな感じになるNCFの相性の良さが十分に生かされた製品に感じられた。

合わせることに変わった。低域には量感タイプの成分を持つが、密度自体は高めた。最低域の拡がりは金メッキの音を踏襲するが、総じて言えばその暖かみを生かしつつ高域がシユアになり、よりリアルな音を持ったプラグ/コネクタになった。
FI・48M / 48 NCF (Ag)。そのハウジングはステンレス合金の削り出し。導電部は銀メッキした上でαプロセス処理。その音はまず、背景の静かさが印象的だ。音像は大きめで立体感がある。高域に銀特有の繊細さと存在感の強さを感じる。ホルトーンなど残響音の純度は高い。低域はやや縮まっはいるものの、押し出し自体は強めでタンピングが効いている。中域を聴くとヴォーカルの存在感が若干ふっくらして、絶妙なバランス。銀メッキの厚さなど、きちんとヴォイシングしたことが窺われる完成度だ。
そしてFI・48M / 48 NCF (R)。そのハウジングはステンレス合金からの削り出し。導電部にはロジウムメッキした上でαプロセス処理している。その音は、元の音色に対してアキュラシーが高く、S/N感もよい。分解能は高いが強調する感じを持っていないのが特徴的。

合わせることに変わった。低域には量感タイプの成分を持つが、密度自体は高めた。最低域の拡がりは金メッキの音を踏襲するが、総じて言えばその暖かみを生かしつつ高域がシユアになり、よりリアルな音を持ったプラグ/コネクタになった。
FI・48M / 48 NCF (Ag)。そのハウジングはステンレス合金の削り出し。導電部は銀メッキした上でαプロセス処理。その音はまず、背景の静かさが印象的だ。音像は大きめで立体感がある。高域に銀特有の繊細さと存在感の強さを感じる。ホルトーンなど残響音の純度は高い。低域はやや縮まっはいるものの、押し出し自体は強めでタンピングが効いている。中域を聴くとヴォーカルの存在感が若干ふっくらして、絶妙なバランス。銀メッキの厚さなど、きちんとヴォイシングしたことが窺われる完成度だ。
そしてFI・48M / 48 NCF (R)。そのハウジングはステンレス合金からの削り出し。導電部にはロジウムメッキした上でαプロセス処理している。その音は、元の音色に対してアキュラシーが高く、S/N感もよい。分解能は高いが強調する感じを持っていないのが特徴的。